

# 大鹿スケッチ

— 第45号 —  
2014年 07月  
〈 発信者 〉  
前志満 くみ  
〈 提供 〉  
旅舎 右馬允

暑中お見舞い申し上げます。庭のヤマユリが二〇日から花を咲かせ始めました。時に、風向きによってはきつい香りを鼻先に感じます。庭はヤマユリの白とガクアジサイの涼やかな青色のコントラストで彩られています。二六日、早くもヒグラシの初音を聞きました。夏の終わり、初秋の蝉ですがどうしたことでしょう。里で暮らしていてもなんだかわからないことが多いので、定期的に山に入らないと季節の実際の進み具合がいまいち把握できません。



## 地元探訪の旅①

### 梅村山と丸山へ

時間ができると野山に繰り出し、よく歩くここ数年。汗をかきかき、岩を登り、倒木を潜りしていると、滞った無駄な考えのループをひとまず断つことができ。自分にとって「必要のない考え」が日頃どれくらい頭の中を飛び交っているのだろうか…恐ろしい。大鹿村梅村と丸山の「稜線レポート」です。

六月四日、以前から気になっていた奥茶臼からさらに南の稜線を目指した。梅村山、前茶臼山、奥茶臼山、丸山・大沢岳、赤石岳へと続く尾根。後から聞いた話、よほどの物好き

でない限り行かないルー挿してある。そこから前トラしい。迷うことはなさそうだが、よくわからないに茶臼に向けて進む。稜線そうだが、よくわからないに出ると青木川の右岸に設けられた林道が見え

から見てみるだけでずいぶん印象が違うものだ。崩壊した山肌の直下に吸い込まれそうな溪谷。山は生き物のなんだな…と圧倒的な説得力にうなずくだけ。そんな崩壊ラインと平行に奥茶臼に向かって歩みを進める。ここからは未踏の地。右側ではゴーゴーと谷をゆく風の音、周りは鬱蒼としたシラビソとトウヒの林。日中でも薄暗い。ある一角、風の通り道か、倒木が激しいところがある。開花期ではないので確認できなかったが、シラビソとみられる植物が限られた範囲に分布している。コマヤマカタバミとのセットだ。(花

休憩もほどほどに前茶臼の最後の登りを黙々と登っていくと白大蛇のようなチャートの塊が現れる。何層にもなった堆積物が凄く力強く押し込まれて波打っている。凄く収縮した奥茶臼24739登頂。

伊那谷における「狼信仰」の収穫と選別が各家々の軒下で行われ、信州は山国であるので昔はさぞや狼は多く生息していたであろう。そういう環境だったからこ

の収穫と選別が各家々の軒下で行われている。堀越の谷は新参者には少々複雑で自力で三峰様を見つけたのは難しそうだ。そこで梅の選別をしてい

## 大鹿 HeatBeat

～大鹿の人々～ 第43回

紙谷 正さん (88)

季節ごとの風景と共に大鹿人の生活を紹介します。



日々の中に熱く響く「鼓動」をお届けします。

六月十日、豊丘村堀越にある三峰様の分社を訪ねてみた。堀越と言えは松茸の産地として知られている。豊丘村のメイ

左写真堀本 ヒトミさん

